



会報

1. 新年のごあいさつ
2. 京丹波わいん大学 in 同志社キャンパス
3. Doshisha New Island Contest 2007
協力報告
4. 2008年度同志社大学プロジェクト科目
お知らせ（土業研究会無料相談）

NPO法人同志社大学産官学連携支援ネットワークホームページ
<http://www.doshisha-net.org/>

発行 NPO法人同志社大学産官学連携支援ネットワーク（同志社大学リエゾンオフィス内）

□ 京田辺 〒610-0394 京田辺市多々羅都谷1-3 TEL:0774-65-6223 FAX:0774-65-6773

□ 今出川 〒602-0023 京都市上京区烏丸通上立売下ル御所八幡町103 TEL:075-251-3147 FAX:075-251-3046

1. 新年のごあいさつ

新年あけましておめでとうございます。昨年とは本NPO法人ならびに同志社大学に対して多大なるご支援を頂戴し厚くお礼を申し上げます。

2004年11月に設立しました本NPOも早くも4年目を迎え、現在83人の個人会員と17団体の法人会員にご入会をいただき、異業種交流会や自主研究会活動などを展開しております。自主研究会であるメセナ産学連携研究会からは、京都府の平成19年度地域力再生プロジェクト支援事業に申請を行い「京丹波特産品のブランド化による地域活性化プロジェクト」として採択され、活発に活動を行っております。また、2007年度に引き続き、2008年度春学期には、同志社大学の正規科目であるプロジェクト科目として『地域団体商標から見た「京都ブランド商標」の育成提案』という授業を行うことが決定いたしました。

徐々にではありますが、NPOの活動が活性化してきているように思います。しかしながら、まだ会員の皆様からの支援や期待に十分に答えるには至っていないのではないかと考えております。そこで、私としては今年も直接皆さまとお話をさせていただくなどをして、本NPOに対する忌憚のないご意見をいただくとともに、活動をより一層推進していくためにお知恵を拝借したいと考えております。本年もよろしくお願い申し上げます。

NPO法人同志社大学産官学連携支援ネットワーク 理事長 八田 英二

新年明けましておめでとうございます。昨年は、本NPOへのご協力を賜り、誠にありがとうございました。本年、さらなる発展の年にしたいと考えておりますので、益々のご指導・ご鞭撻をお願い申し上げます。

さて、昨年は「D-egg」の入居企業を中心としたベンチャー企業の支援活動を講演・総合アドバイスその他各種観点から実施し、同志社大学のプロジェクト科目を担当して直接学生の皆様に本NPOメンバーが授業をするという実績も生まれ、今年度も継続してプロジェクト科目での授業を行う予定です。加えて、会員が積極的に参加して運営するという本NPO本来の特色を受けて、自主研究会も複数立ち上がっております。理事の充実に伴う組織体制の拡充と、会員の皆様の積極関与に基づく自主研究会とが良い形で融合し始めております。

こうした流れを大きく育て、同志社大学の産学連携を発展させるために本NPOとして何ができるのかを日々考えながら進んでいきたいと考えております。

このNPOは、会員の皆様の熱い思いに支えられた組織です。皆様のご意見を積極的に取り入れて参りたいと考えておりますので、今年1年もよろしくお願い申し上げます。

NPO法人同志社大学産官学連携支援ネットワーク 副理事長 五島 洋

2. 丹波ワインとおいしい京丹波の食材を楽しむ夕べ 京丹波わいん大学 in 同志社キャンパス 報告レポート



2007年12月11日、同志社大学今出川キャンパスの寒梅館7階レストラン (SECOND HOUSE will) で京丹波ワイン大学を開催いたしました。

この企画は「京丹波特産品のブランド化による地域活性化プロジェクト」の第2弾であり、当プロジェクトの参画団体の一つである同志社生活協同組合の設立50周年企画とのジョイント開催となりました。

会場の関係で50人の定員としていましたが多数の応募があり、最終的には60人の参加がありました。開会にあたり、同志社生協の大鉢忠理事長から京丹波ワイン大学の趣旨説明や同志社生協のこれまでの歩みなどについてのお話があり、それに引き続いて、京丹波プロジェクトの委員長の山口洋典氏 (同志社大学大学院総合政策科学研究科准教授) から京丹波プロジェクトの目的とこれまでの活動内容について説明がなされました。

その後、さっそくグラスにワインを注ぎ乾杯を行い、食事と歓談の時間となりました。京丹波の食材をふんだんに使った料理とさまざまな種類のワインを味わいながら交流を行いました。

生産者と消費者の距離を近づけたいということで、料理の周りには京丹波の野菜や豚を育てて下さっている生産者の方々の写真をパネル展示しました。その効果もあり、自然と話題が生産者や京丹波という地域にも及び「食」を育てて下さっている農畜産業者の方々に対する感謝の気持ちもわいてきました。(おいしいものを食べると幸せな顔になり、心まで清らかになるようです)



参加者の中には、次々に出てくる料理を楽しみながらワインの飲み比べをする方もおられ、酔いがまわるとともに徐々に雰囲気盛り上がりしてきました。食事の合間には、お楽しみ企画として、「わいん大学の講義」(丹波ワイン株式会社の黒井衛社長によるワインのお話) やテイスティング (利きワイン)、わいんクイズが行われ、盛り上がり最高潮に達しました。(優勝者にはワインのプレゼントがありました)



参加者からは、「たいへんおいしかったので、また開催してほしい」「京丹波の食材をどうすれば手に入るか」「京丹波の黒豆や野菜についてもっと知りたい」などの声が聞かれ、大好評でした。

京丹波プロジェクトでは、このような楽しい、おいしい企画を開催しながら、多くの方々に参加いただいて、この輪を広げていきたいと思っています。

3. 第4回 同志社大学ビジネスプランコンテスト Doshisha New Island Contest 2007 協力報告

同志社大学で毎年恒例のビジネスプランコンテストが開催されました。12月3・4日に行った予選には22チームが参加し、6チームの決勝進出が決定しました。

そこからNIC2007までの約10日間、出場チームのみなさんは、それぞれに事業計画を見直し、プレゼンテーションの練習をされたことでしょう。12月15日の本番では、6チームそれぞれに趣向を凝らした発表を見せてくれました。

例年、同志社大学のビジネスプランコンテストに応募される事業計画は、社会貢献を重視した内容が多いことで有名ですが、今年度はそれに加えて「人と人との絆」を重要視するプランが多く見られました。

1位に輝いた<京都野菜取引所>は、無農薬野菜をできるだけ安価に、広く流通させたいという思いからできたプランです。欲しい野菜に出資し、その額に応じた量を還元するという事業計画をメリハリの効いたプレゼンテーションで披露してくれました。本プランを発表した田中淳士さん(商3)は、本格的に起業を目指されるとのこと。審査委員からも「まずは、インターネットで京野菜を検索し、出てきたページを全て読みなさい。その後、京都の農家で1年間修行させてもらいなさい」という温かい叱咤激励のコメントがありました。

このコンテストに参加された学生さんからは、「楽しく真剣に取り組むことができました」「プランを作成する中でたくさんの方と出会い、充実した時を過ごしました」というメールがたくさん届いております。これは、同志社大学リエゾンオフィスが学生対象事業の中で最も重要視していることです。今後の彼らの活躍を楽しみにするとともに、ご協力くださった方々に感謝いたしております。今後ともご支援ご協力のくださいますようお願いいたします。

1位 京都野菜取引所 [ショッキング] 田中 淳士(商3)

2位 『おかんごかん』～BIRTHDAY ビジネス～ [顔採用]

木村真規子(商4)、眞田菜穂子(商4)、竹内 愛(政4)、前川 和都(京都大学)

3位 名刺の電子化 ～CYSM～ [if] 福井 一生(法2)

ポスター部門1位 = [レーベン]

高岡 愛(文2)、上田 航(経3)、河野 愛生(京都精華大学)、間宮 大樹(龍谷大学)

その他のNIC2007出場(予選通過)チーム *発表順

ペットボトル広告”ひきまっせ” [ピザメン]

レンタル別荘～絆を形に～ [KY]

広告車による新規レンタカー事業～公道を走る F1～ [さんだす]

なお、本NPOからは下記7名の方がNIC2007審査委員を務められました。

北浦 弘順 氏 (株式会社南都銀行バリュー開発部長) 団体会員

神保 敏明 氏 (池銀キャピタル株式会社代表取締役社長) 団体会員

駒宮 淳史 氏 (同志社校友会大阪支部産官学協会 LCC 副会長)

吉田 雅紀 氏 (株式会社あきない総合研究所代表取締役社長) 団体会員

松本 敏史 理事 (同志社大学商学部教授)

和田 元 理事 (同志社大学研究開発推進機構長)

辻内 伸好 理事 (同志社大学リエゾンオフィス所長)



4. 2008年度同志社大学プロジェクト科目にNPO提供テーマが採択されました

NPO会員の皆様の経験を、後輩である学生に伝えようとして取り組んだプロジェクト科目（大学正課授業）の2008年度提案テーマが採択されました。

2007年度は、五島副理事長や眞下理事を中心に『”知的財産”の最前線から学ぶ—社会で役立つ知財を身につける—』をテーマとし、特許情報センターや裁判所見学等の学外で学ぶことに重点を置いて取り組みました。

2008年度は、荒浪直哉氏（会員）を中心にご協力いただき『地域団体商標から見た「京都ブランド商標」の育成提案』に取り組みます。

京都は、「京人形」「宇治茶」「京友禅」「京たけのこ」「京扇子」「京都鴨川納涼床」など、日本で一番多くの地域団体商標が存在します。京都で学ぶ学生に、京都ブランドを体験してもらうとともに、ブランド力の強化や高齢化対策に取り組む団体や地域とコラボレーションすることで、学生ならではの観点による地域活性化に貢献することを目指します。

NPO法人のネットワークを活かした授業運営によって、学生が多くのことを学べるよう取り組みますのでご支援・ご協力の程なにとぞよろしくお願いいたします。

なお、7月頃に京田辺校地にて成果発表会が開催される予定です。日程が決まり次第ご報告させていただきますので、ご参加いただければ光栄です。

プロジェクト名：地域団体商標から見た「京都ブランド商標」の育成提案

開講期間：2008年度春学期

開講校地：京田辺校地

科目代表者：出口博之 工学部教授（同志社大学知的財産センター副所長）

科目担当者：NPO法人同志社大学産官学連携支援ネットワーク 荒浪 直哉氏

5. お知らせ：土業研究会（本NPO自主研究会）が無料相談を実施します

土業研究会では、研究会所属の弁護士、弁理士、司法書士、行政書士、社会保険労務士、中小企業診断士、税理士、公認会計士、ファイナンシャル・プランナーなどの専門家が皆様からの相談に応じます。

（相談料は無料です。継続してご相談に応じる等、料金が必要となる場合には事前にお伝えいたします）。

皆様のお持ちになっている課題や問題について、悩みを抱えこむことなくお気軽にご相談ください。

（連絡先）担当 平野 電話：0774-65-6223 FAX：0774-65-6773 E-mail：staff@doshisha-net.org